

# 令和元年度 上田市立清明小学校 自己評価シート(総合報告)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価								
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの 育成」  ・心も体もたくましい 子ども ・友だちに親切にできる 子ども ・しっかり学習できる 子ども		①自主:豊かななかかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		・自主の素地を育てることを意識して取り組んできました。子どものよさを認め、子どもたちと一緒に考えることを大事にした成果が出ているように思われます。こうした活動の中で、間違いや失敗を恐れず、自信を持って表現できる子どもをさらに増やしていきたいと思えます。 ・総合的な学習の時間での体験的学習を通して、意欲的に取り組むとともに、自分で考えて仲間と協力して創り上げていく姿が見られました。さらに「やってよかった」「こんなことが出来るようになった」という学びの実感が持てる場を工夫したいと思います。 ・個の興味関心に基づき課題追究ができる子やグループ学習など友との関わり合いの中で課題をクリアする子が増えています。								
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策		
		1	一人ひとりがより大切にされる学級・学校(自主・豊かさ)	自分や友達を大切にしながら過ごす姿が多く見られます。さらに教室での児童個々の居場所が安定するよう全校体制で取り組みます。		○				縦割り班や児童会活動及び学年・学級活動で相手意識に立って多様な他者と関わり合える活動をさらに充実させ、自己肯定感や自己有用感の伸長に努めます。		
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる(学び)	児童の願いや問題意識を大切に授業づくりで、主体的に学ぶ子どもの姿が多く見られました。今後も授業改善に取り組みます。			○			今後も子どもの間いや「こうしたい」という願いを大切に授業づくりを継続するとともに、達成感を味わえるため、振り返り、評価を大切にしていきます。				
対象	評価項目	評価の観点		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策		
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積		困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していかれる適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積み重ねたか。		諸活動を通して、粘り強く課題に取り組み、やり抜く子どもたちの姿が見られました。今後も授業や行事での達成感を大切にします。		○			仲間との問題解決場面を増やし、相手の意図をくみ取ったり、折り合いをつけたりする合意形成力を育てていきます。また本物に触れて学ぶ活動を充実させます。	
		挨拶の充実		日常的な声かけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。		挨拶の意識が高まっていますが、個人差も大きいと感じています。日常的に挨拶のよさを伝え、自然な挨拶へと向けていきます。			○		児童会活動を中心にあらゆる機会を通して今後も呼びかけを継続していきます。自然な挨拶にむけて、自分自身を見返す有効な手立てや評価の工夫を図っていきます。	
		人権同和教育の日常化		一人一人を大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。		互いのよさを認め合い、友とともに学びあう心地よさを味わうことができました。個の課題に応じた指導の工夫をさらに進めていきます。		○			今後も行為のよさやよい姿を繰り返し紹介していきます。また、友だちのおかげで気づいたことや間違えたことから学べる教育環境を大切にしていきます。	
		思いやりの心の育成		児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。		「あつた言葉」を推奨したり、1日を振り返り良かった点を発表し合ったりしてよさを共有しました。今後もよさの共有を図っていきます。		○			縦割り班活動をさらに充実させ、今後も思いやりの心を育てていきたいと思えます。学習集団を形成する中で所属意識を高められるよう、工夫していきます。	
		研修を生かした実践		特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。		全職員で児童の様子や課題を共有し、指導・支援の方向を確認することができました。さらに内容の濃い研修を目指します。			○		新学習指導要領完全実施に向けた研修や多様な分野における実践的研修を通して、子どもたちに還元できる専門的な知識・技能を高めていきたいと考えています。	
	2 学び	「ふるさと学習」の推進		「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。		地域に出たり、地域講師に來校いただいたりして活発に学ぶことができました。年間を通じた活動のテーマも考えていきたいです。		○			短期的な活動に加え、年間を通して取り組める地域素材の教材化を今後も図っていきます。職員が学級・学年間の実践を互いに共有し合う場も設定していきたいと思えます。	
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み		自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。		児童会活動によりマラソン、靴揃えを意識することはできたが、個人差もあり課題が残りました。必要に応じた個別対応を考えていきます。			○		児童会を中心とした呼びかけの継続に加え、目標設定や振り返りができるカードを工夫して、各学級指導などにより支援の充実を図ります。	
		学習習慣の形成		腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。		学びの基本として話を聞く姿勢に力を入れてきましたが、個人差が大きいので、日常的に聞く姿勢についての指導を工夫します。		○			姿勢だけではなく、話の内容も聞き取っているかという評価を大切にしながら、分かりやすく伝える工夫や手立て及び魅力あるプレゼンテーションに心がけていきます。	
		学習課題の共有		学習課題を共有し、課題解決に向けて、友の考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。		自分の考えの根拠を持ち、それを堂々と発表することができました。さらに他者の意見を取り込んで考えを再構成する姿が見られました。		○			今後も子どもたちとともに問いを見いだしていく授業を心がけ、授業の終わりに次の授業につながるまとめや振り返りの時間をしっかりと位置づけていくようにします。	
		話し合い活動の充実		ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育てることを通して、学力向上に努めたか。		ペア・グループ学習や全体追究など学習形態を変えて学び合うことが定着してきています。学び合う楽しさや喜びも高めていきたいです。		○			これからも有効な学習形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践を心がけていく中で、話し合い活動の充実を図ってきたいと思えます。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった



